



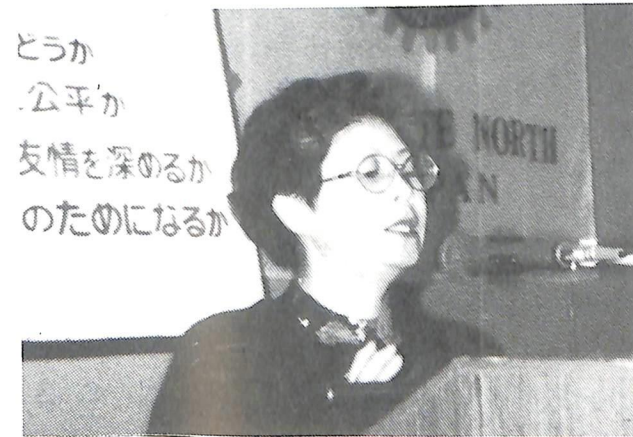
# 函館北ロータリークラブ会報

クレン・W・キンロス 1997~98年度 国際ロータリー会長テーマ

ロータリーの心

## Show Rotary Cares

中川洲平会長テーマ 『ロータリーは楽しく、そしてハーモニーの心を。』



3月18日 ゲスト 武藤 美穂 氏

《第1674回例会》 第36号 3月25日(水)

### 本日のプログラム

「チャーチ・フェスティバル」

吉岡直道氏

★会長 中川洲平

★幹事 小池凌一

1997～1998

〈第1673回例会〉第 35 号

3月18日の記録

◎司 会 中川 洲平 会長 ◎斉 唱 手に手つないで

◎ゲ ス ト はこだて・虹と夢の会会長 武藤 美穂 氏

◎ビジター 函館R.C. 澄 信一 君・中山浩一君、函館東R.C. 日下部一博君  
・鎌田 剛 君、函館五稜郭R.C. 渡辺泰峰君・山本欣志君

◎会長報告 中川 洲平 会長

- 友好クラブ台北東北R.C. のメンバーと交流できました。
- 国際ソロプチミスト函館、侑愛会からお礼状が届きました。回覧致します。

◎幹事報告 小池 凌一 幹事

- 5月に開催される地区大会の登録書を回覧します。登録の確認と記名をお願いします。
- 次年度の合同名簿原稿を回覧します。確認をお願い致します。
- 本日新入会員の推薦がございました。異議申し立ては3月24日まで書面でお願い致します。

◎親睦活動委員会 遠藤 尚孝 委員長

ニコニコBOX投入報告

中川 会長……台北東北R.C. の会員の皆様と友好をあたためて参りました。

加藤(簡)会員…… " "

吉田(陶)会員…… " "

森(秀) 会員……BOXに協力。

島本 会員……暖かくなってきました。

佐々木会員……吉田さんと台湾で疲れて来ました。(ゴルフで)

西尾 会員……フランクやジョージさんに会って来ました。

三沢 会員……確定申告終わりました。

加藤副委員長にニコニコBOXを強制されましたので。

◎卓話「共に生きるために」 はこだて・虹と夢の会会長 武藤 美穂 氏  
障害者共同作業所の武藤でございます。今日はこのような席を用意して下さいますありがとうございます。私は普通のおばさんで、ただの母親にすぎませんので、このような所で上手にお話することは苦手なのですが、私がなぜ福祉とかかわる事になり、この「虹と夢」を作る事になったのかを少しお話したいと思います。

「虹と夢」はいわゆる小規模作業所といわれるもので、学校卒業後や病院退院後に行き場のない障害をもつ人々の働く場として作られ、地域での自立生活をめざしており、地方自治体の補助金やバザーや物品販売などの収益活動によって何とか維持されています。市内には、法人の一条学園内「よのもと作業所」、福祉センター内食堂の知的障害者の会で運営している「たんぽぽ」、大人の男性の身体障害者が中心でミミズで肥料を作っている作業所、大人の女性の身障者が中心のエプロンなどを作っている「ふれあい」、知的障害の会でやっている「うみの星」、自宅を開放している「おはよう」、そして「工房・虹と夢」です。つい先日、函館で上映され大ヒットして2,200人も人が観たアニメ映画の「どんぐりの家」も聴覚障害と知的障害の子供をもつ親を中心にこの作業所を作ることになった実話です。この映画の製作費の一部を函館の「銀月」の御主人も出しています。

皆様「二分脊椎症」という疾病名を聞いたことがありますでしょうか。「脊髓々膜瘤」とも言います。今話題の「失楽園」の作者 渡辺淳一氏の大部前の小説「雪舞」は、この二分脊椎症の子供が生まれた家庭がモデルで、さすが元医者だけあって医学的に詳しく書かれてあります。それから小説家の水上勉さんの娘さんもこの障害をもち生まれ、その時日本の福祉のおそまつさを痛感して「車いすの歌」や「拝啓総理大臣殿」他を書いています。

脊髓はふつう脊椎骨で作られた脊椎管の中にあり、脊髓膜に包まれ膜と脊椎の間には脊髓液が満たされており、中枢神経の一部である脊椎は外からの衝撃に対して守られているわけですが、二分脊椎症とは、この脊椎骨の形成が不十分のため、骨の一部が欠けている状態です。原因はまだ不明で、今では生後ただちに脳外科で手術しますが、障害の程度はこわれた神経の程度によって、車いすからはほとんど外見には普通に近い生活が出来る

ようになるなど様々ですが、患部はほとんど腰に多く、下肢障害・知覚神経マヒ・水頭症等を併発し、日常生活を送る上で障害となっています。簡単に言えば先天的に脊椎損状態なわけで、日本人には少ないと言われています。26年前、私の娘は9ヶ月の未熟児で帝王切開で生まれた上、この二分脊椎症だったのです。しかも頸椎でしたので脳外科のDrから「手術が成功しても首もすわらないかも知れない」と何度も言われました。生後38日目で手術を受けました。

それでも不幸中の幸と言うべきか、普通子供は満1才前後には立ち出し、一歩二歩足を運び出し、同じ頃にわけのわからない言葉を発しはじめ「おはなし」が出来るようになるのですが、娘はそれが満4才過ぎてから始まりました。

ノーベル賞を受賞した大江健三郎さんの知的障害の光さんは6才の夏に野鳥の歌を録音したレコードの解説者のアクセントで「クイナです」と言ったのが言葉を話した最初だったそうです。

そんなわけで補乳瓶の時は手をそえて持たせ、スプーンの場合はスプーンを、ハサミの時はハサミと、その時その時必要に応じて正に「手を取り足を取り物を教える」とはこのことで、当時、松前に住んでおりましたから函館の病院や青柳学園への訓練や札幌の身障児の訓練センターへの入所など死にものぐるいになって考える事はすべてやったと言う感じでした。そしてそんな中で病院で青柳学園で、札幌の療育センターで、ほんとうにたくさん障害のある子供達と出会い、その悩めるお母さん達とぐちり合い、なぐさめ合い、励まし合い頑張ってきました。

その後、同じ病気の会がある事がわかり、函館にも会を作り、北海道難病連の活動にも参加してきたのです。その活動も今年20周年を迎えます。そしてその時強く思ったことは、親がいなくなっても子供はこの社会の中で生きて行くことを考えなければならないと言うことでした。

娘は遅ればせながらではありましたが、次の段階へと少しずつですが進みましたので希望を捨てずに来たわけです。そして先ほど言いましたように、このふつうの社会で自立して行くにはやはり普通学級へと「普通の生活」に強くこだわったのです。3年程前に大江健三郎さんがノーベル賞を受賞した時に、私が道新の「陽だまり」に投稿した文が載りました。

4・5年前に北海道難病連の福祉ツアーに娘と参加し、ドイツのデュッセルドルフ、オランダのアムステルダム、フィンランドのヘルシンキ、スウェーデンのストックホルムと障害者や高齢者の施設や住宅、家庭やグループホームなど各地を視察してきて、正にカルチャーショックを受けました。

デュッセルドルフでは「リハ展」を見学したのですが、もちろん展示がハンディのある人を対象にしているのですから当然なのですが、そこへ来ている人達の車いす一つとっても多種多様でカラフルで、利用している人もパンクファッションあり、ピアスありと全く健康な人と同じファッションで、サリドマイドの女性が短い手の爪を赤くマニキュアをしてタバコをスパSPAと実に堂々としている感じで、当たり前なんだけどやはり日本ではこうはいかないなあと思いました。

もし日本で障害者がこんなことをしようものなら「障害者のくせになんだ」と、たちまち言われてしまうことでしょう。

スウェーデンでは交通事故に会ってから車いす生活をしている30代の男の方のお宅を訪問したのですが、一人で町の集合住宅に住んでいて、自治体から職員が派遣されていて、世話をする人もそれぞれ相性があるから相性の良い人を選ぶことが出来る、気の合った人に長くケアしてもらった方が良い。例えば市からヘルパーさんが派遣されて来て、自分とフィーリングの合わない人であれば変えてもらう。又、必要に応じて条件に合った人を頼める。例えばサッカーを観に行きたい時はサッカーの話の出来る人、たまにレストランで食事をしたかった時は女性をというようにです。

障害はあっても事故に合う前の生活とほとんど同じであると言っていました。去年でしたか道新にもスウェーデンの福祉報告「ブリッタの毎日」と言うのにも紹介されていましたが、1994年に「身障者」や「知的障害者」とその家族にとって「神様の贈物」と言われる「一定の機能的な障害ある人々に対する援助とサービスに関する法」(LSS法)が施行され、パーソナルアシスタントを雇用出来るようになった、と報告されましたが、私が行ってきたのは1993年ですからその次の年にはさらに充実してきているということです。そしてスウェーデンでは不況のどん底だったにも関わらず、障害者がより自立し、充実した生活を送れるよう保障する法律が誕生

したのです。そして法律のための増税はなく、その分軍備費の削減や福祉以外の分野の節約や縮小が続いているそうです。障害者のオンブズマン制度も確立しています。

ヘルシンキでは、お母さんが日本人で向こうの方と結婚し子供が障害児という方にガイドしてもらい、その方のお宅にもみんなでお邪魔して身障者のために改造されたトイレやバスを見せてもらいましたが、富夫君は当時15才で車いすで、もちろん地域の学校へ行っていますが、学校へはタクシーが戸口から戸口まで毎日送り迎えしてくれ、学校にはヘルパーやセラピストが居て、必要な介護や相談（もちろん無料です）をすべてしてくれるそうです。

女性の80%はフルタイムで働いているので、自分の子供でも介護している人には仕事とみなし年金も付くと言うことです。この家庭の日本人のお母さん（アルホ山田まち子さん）は、これが縁で3年ほど前に私達「市民会議」で函館に富夫君と2人お呼びし、講演してもらいました。時々マスコミにも登場しています。フィンランドではギャンブルの益金は福祉に使われていることに触れていました。それからフィンランドと日本では共通している所があるということです。共に高齢化社会である、教育程度が高い、女性の社会進出が著しいなどですが、行ってみてはっきり日本と違うと感じたのは、政治や企業などジャッジする立場に女性が多いと言うことです。行政はサービス業との考えで議員はボランティアということ。議員の約半数は女性だそうです。

さて私なりに生まれた娘が思いもかけずにハンディを持った事によって、彼女を通して、幼児期には医療について、学齢時にはいじめや登校拒否にあたりと一通りの問題とぶつかってまいりましたが、それでも学校に行っているうちはまだ良いのです。問題はそれから先なのです。その先はずっと世間という荒波の中で生きて行かなければならないわけです。日本の社会は、今外国の例をあげましたが、ハンディのある人と一緒に暮らせるようになっていません。本当のノーマライゼーションとは、普通の社会とは、お年寄りも若者も、お金持ちもいれば貧乏な人もいる、健康な人もいればハンディのある人もいる、そんな色々な人達が一緒にいると言う社会だと言うのです。

今若者達の間で殺ばつとした事件が続いているのは、何かこんな日本の社会と無縁ではないと思います。一方親は老いていきます。私も老後の事を考えなければならぬ年齢になってきています。心配はつきませんが疲れてきています。障害児は親だけが背負わなければならないのでしょうか。私の体験はほんの一つのケースにすぎません。ハンディを持った子供の親はみんな同じ気持ちなのです。何とか本人の能力に合った仕事につかせ自立させたいと切に願っています。しかし現実には本当に厳しいものがあります。今、毎日のように「福祉」という言葉を目にしたり耳にしたりしており、国は「障害者プラン」や「新ゴールドプラン」を打ち出して一見福祉社会に向かっているかのように見えますが、ほんとうにそうでしょうか。もし自分がケガをしたり病気になったりして普通の生活を自分一人で出来なくなった時、又高齢になっても同じです。だれかの手助けが必要になり、いわゆる弱者になった時、いざとなった時にいつでも安心してこの町で暮らせると思えるでしょうか。障害者の問題は本当はみんなの問題だと思ふのです。今「虹と夢」には娘も含めて比較的障害の軽い若者が中心に通っておりますが、厳しい現実の中で仲々雇用のチャンスがありません。そして社会参加の選択肢がとしても狭いのです。そこで、それでいいのか、もっとみんなの問題としてとらえ健全者と障害者が共に暮らせるような街づくりに参加し行動しようではないかとの考えから「街づくり市民会議」が出来ました。そして市の障害者福祉の基本的施策を示した「障害者に関する行動計画」の検証等、活動をして行くうちに関わっていた有志が中心になり、社会参加のチャンスに恵まれず在宅している人達に、とりあえず社会トレーニングの場にこの「工房・虹と夢」を設立することになったわけです。そして更にこの街で自立生活できるよう次のステップである就職へのバックアップや健全者と障害者の出会いとふれあいの場所でありたいと考えています。そんなわけで、この「虹と夢」の誕生は市民運動の中から生まれた今までにはない稀なケースと言えます。

スタートしてまだ2年ですので、まだまだ不十分ではありますが、志しを同じくするスタッフやボランティアに恵まれ、良いチームワークで運営にあたり、少しずつ軌道にのりつつあります。私達の趣旨に賛同して、もはや250名位の方々が後援会員になって下さって今日ここにおいでの方



弁護士には一方ならずお世話になり、後援会長もお引き受けしていただいております。そして時にはちょっと学校へ行けなくなった高校生や仕事に行き詰まった若者がハネを休めにボランティアとして来たり、そんな場所にもなっております。

今「工房・虹と夢」は馬主協会からの寄附を元に、日乃出町に待望の新工房を建設中で4月からは気持ちも新たにそこで活動する事になっています。新工房では、リサイクル・粉石けんの製造・パック・販売やコンブのパック販売、バザーやフリーマーケットへの参加、文化面では各イベントやコンサート講演会などへの積極的参加、ワープロ文書作成、パソコン入力、編集など今まで通りの活動の他、新しく手作りパン・クッキーも製造することになっています。

みんなで力を合わせて一日も早く夢を実現させたいものと頑張っておりますので、今日のこの縁を機会に是非、私達「工房・虹と夢」の事を分かっただけ、それぞれのお立場で後援して下さいます事をお願いしまして、つたないお話を終わらせて頂きます。本日はありがとうございました。

◎ 出席報告

会 員 数	66名	出 席 率	函 館 北	3月4日	84.38%
出 席 席	47名		函 館 東	3月3日	91.75%
欠 席 席	19名		函 館	2月26日	88.07%
他クラブ出席	7名		函館五稜郭	2月27日	100.00%
出席合計	54名		函館亀田	3月2日	84.91%
除 外 者	2名				

次回・4月1日  
プログラム

「函館の歴史的風土を守る会の活動について」

函館歴風会 会長 浜島 国四郎 氏



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

# 函館北ロータリークラブ会報

クレン・W・キンロス 1997~98年度 国際ロータリー会長テーマ

ロータリーの心

## Show Rotary Cares

中川洲平会長テーマ 「ロータリーは楽しく、そしてハーモニーの心を。」



3月25日 ゲスト 吉岡 直道 氏

《第1675回例会》 第37号 4月1日(水)

### 本日のプログラム

「函館の歴史的風土を守る会の活動について」

函館歴風会 会長 浜島 国四郎 氏

★会 長 中川洲平 ★幹 事 小池凌一

例会場：函館国際ホテル 〒040 函館市大手町5-10 TEL 23-5151  
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務所：函館市大手町5-10 二チロビル3階 23-3870